

# 2010 全道少年・少女選抜大会

## HFAテクニカルレポート



2010年8月10～12日

【報告者】山橋貴史 尾見秀樹

### 1. 事業の概要

8月10日（火）～12日（木）まで帯広市で開催されたこの大会には全道15地区のU-12トレセンとU-12コンサドーレ札幌、U-12女子トレセンが集まり、ゲーム・トレーニングを通して交流を図り選手の育成と強化をする大会となった。今年度は男子と女子が同じ日程、同じ場所で行い交流をした。男子は1日目16チームを4チーム×4グループでリーグ戦を行い2日目は各チームの選手をバラバラに16チームに分け4チーム×4グループでリーグ戦を行い3日目はチームに戻り順位決定戦を行った。最終日は天候悪化により急遽中止になったが選手の育成、強化、指導者の交流や選手選考など新たに組み込んだ部分も良かったと思います。

### 2. 1日目～地区対抗戦～

年々、意図のないロングキックも減り、常に動きながら、常に考えながらプレーする、プレーしようとしている選手が増えているように感じられた。

GKもパスをつなぐことを意識したプレーが随所に見られた。

指導者においても地区対抗戦の主目的である「地区のレベル把握、課題抽出、修正克服」を念頭に置いた上でのサイドコーチが目立った。

また、トレセンの歴史浅い地区が歴史ある地区に勝利するなど、勝つことばかりが目的ではないが、底上げが図られていることも実感し、歴史浅い地区の指導者にとっての励みになると感じた。

夜は、選手に対して「熱中症について」「オフザピッチ」「今日の試合から」をテーマに講義し、指導者に対しては「道U-12トレセン今後の活動」「今日の試合から」「明日のシャッフルゲーム」について話し合った。

その後、選手と指導者が一緒にグループ別ミーティングを行った。

地区指導者が地区の垣根を越えて、自分のグループの選手のためにと熱心に打ち合わせしてい

る姿が見られ、選手だけではなく指導者にとっても有意義な時間になったと思う。

（文責：尾見）

### 3. 2日目

普段、一緒にプレーしていない選手が集まりゲームをする経験は選手にとっても良い経験になったと思います。すぐに自分の意思やプレーを表現できる選手や遠慮しながらプレーする選手と個性がありました。また、個人を観る（選考すること）に関してサッカーの理解や組織でカバーできない部分が現れ北海道スタッフ、各地区スタッフも選手の見方が変化したと思います。夕方、宿舎に戻ってからレクチャーとしてU-12年代のゲーム環境についてレクチャーを行い、2011年から全日本大会が8人制になることに関してディスカッションを行い各地区の実情など活発な意見交換ができたのは大変よかった。

### 4. 3日目

選手、スタッフは各地区トレセンに戻り順位決定戦を行った。1試合ずつ終わったところで大雨が降り、高速道路の通行止め、JRの運休があり選手の健康状態、遠方の選手の帰宅を考え中止になりました。最後まで出来なかったのは残念です。



## 5. 女子

今年度より女子も少年少女選抜としていただき1泊2日にて行い、全道より5ブロック87名の少女(6年生63名5年生24名)が参加した。1日目はブロック対抗のゲーム、2日目には技術レベルを考慮し6チームに分散しゲームを行った。男子と同じ会場にて行うことによって4種スタッフにも選手を見ていただくなどNTC-U12にむけて選手レベルの共有ができたことなどプラスになることが多く感じられました。この大会を行うことにより、各ブロックでの事前の活動や選手の把握など女子にかかわっているスタッフにもいい機会となった。

1日目の夜には、なでしこ JAPAN をはじめ各年代代表に北海道出身選手がいることなど夢から目標を持つとうをテーマにレクチャーを行い、選手からも今後の夢など積極的な意見を聞くことができた。その後、指導者間によるディスカッションにて各ブロックの現状や今後の活動についてをはじめ、来年度にむけてポジティブな意見交換を行うことができ、選手及び指導者においても大変意味のある大会になりました。

## 6. GK

### (1) ゲームへの関わり

- ・ どのGKも積極的に声は出していた。
- ・ 8人制でピッチがせまいため、どのGKも集中してプレーしていた。
- ・ DFライン裏のボールへの狙いは少なかった。

### (2) シュートストップ

- ・ ダイナミックなプレーも見られたが、シュートに対して最初から飛んでしまい、足を運べていない選手が多い。
- ・ 構えるタイミングやその姿勢がまだまだ不十分で、ボールに対してスムーズにアクションが起こせていない。

### (3) パス&サポート、ディストリビューション

- ・ 8人制ということもあり、GKをつかったビルドアップがいくつかあったが、テクニックが低くピンチを招く場面も見られた。
- ・ 空知、函館、旭川等は、チームとしてディストリビューションの意識も高く、スムーズに攻撃している場面があった。

## 7. まとめ

今年度の大会は2日目に選手をバラバラにグループ分けするという新しい試みをしたが選手にとっては他地区の選手と同じチームでプレーする機会がありよい経験になったと思う。また指導者も他地区の選手を指導することで組織ではなくサッカーの原則、基本を伝え個人にフォーカスした指示を与えていたことなどから指導者にとっても良い経験になったと思います。継続して取り組むべきだと感じました。8人制のサッカーも質が上がり、どの地区トレセンもノージャッジで蹴り込むだけのサッカーではなく、組み立てポゼッションしながらゲームをしていた。指導者のコーチングも関わり過ぎずポジティブなコーチングであった。今大会は各地区トレセンの対抗戦形式になっているが、この大会で勝つことが全てではなく選手育成を考えた取り組みをしている地区が増えたことは成果だと言える。札幌トレセンは札幌市内10区のトレセンと連携してトレセンマッチを定期的に行い選手の情報、発掘をしている。今大会も10区トレセンからの入れ替えから選考された選手がいた。函館トレセンは1日目の結果は良くなかったが選手個人は技術、戦術がしっかりしている。そして指導者の関わり方も良かった。宗谷地区は技術がしっかりしている選手が多くなってきたように感じます。その他の地区も勝利至上主義ではなく選手個人の育成を考えたゲームを展開してくれた。2011年からJFA主催のU-12年代の大会が8人制になるが、今回のトレセン大会と同じようなゲームの質が全道でプレーされることを望みます。「我々は選手の未来に触れている。」選手の将来を見据えU-12年代に獲得すべきものをしっかりと身につけさせる指導者が増えることとクリエイティブでたくましい選手が育つことを期待します。

